

目標年度：2020 年度

策定年度

2020 年度

2020 年度石川町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

名称：石川町農業再生協議会

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本町は福島県の南部に位置しており、およそ 870 ヘクタールほどの水田を有し、地理的な条件から旧石川町・旧沢田村・旧野木沢村の平坦地と旧山橋村・旧中谷村・旧母畑村を含む中山間地に区分され、地域ごとに特色をいかした農業経営を行っています。

(1) 平坦地

当該地域は、標高 300 メートルほどの平野部地域であり、河川に囲まれ水利条件に恵まれたことから基盤整備事業等水田の大区画化が進んでいます。

この地域は経営体が約 470 戸あり、一戸あたりの平均経営耕地面積は 1.72 ヘクタール（水田は 1.2 ヘクタール）集落営農改善組合や法人等の担い手へ農地集積が行われています。

作付品目については、コシヒカリ・ひとめぼれ・天のつぶといった主食用米、夢の香や美山錦といった酒造好適米など多種多様な品種が作付されており、「売れる米づくり」の実現のため様々な取組みを進めています。

また、年間を通じて気象条件が良好であり、首都圏にも近い地理的な条件を生かし、トマト、にら、ブロッコリー、ナス等の野菜を中心とする作付が行われており、県内でも有数の産地となっています。

課題としては、主食用米の作付割合が非常に高いことがあげられ、米価の下落を予防し安定した農業経営を確立するために収益性の高い作物への転換を推進する取組みが必要になります。

(2) 中山間地

当該地域は、北須川右岸沿いに存する中山間地域であり、標高 370 メートルから 600 メートルの起伏の多い丘陵地帯です。主だった取水河川がないため、ため池や湧水を主水源に水田経営を行っています。

この地域は経営体が約 430 戸あり、一戸あたりの平均経営耕地面積は 0.98 ヘクタール（水田は 0.79 ヘクタール）と水田面積に対して経営体数が非常に多く、経営規模が小規模な農業者が過半数を占めています。

また、畜産が盛んな地区であるため、戦略作物である稲 WCS の生産が盛んに行われており、町作付面積の約 80 パーセントを占めています。

加えて、地元畜産農家との耕畜連携にも積極的に取り組み、飼料用米稲わら利用や堆肥の資源循環を行っています。

課題としては、有効活用されていない遊休農地が多いことがあげられ、飼料作物や土地利用型作物の作付を促す取組みが必要になります。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 水稲（主食用米）

コシヒカリ、ひとめぼれ、天のつぶを主品種とし、環境保全の試みと合わせながら食味

ランク特 A 取得に向けた食味分析にも取り組み、良食味米・特別栽培米等のこだわり栽培を強化します。

また、直は栽培・疎植栽培等の省力化・低コスト化栽培の拡大を推進します。

さらに米卸、特定の販売店（ベンダー）、学校給食等、多様な販売体系を確立し、関東圏等消費地においては、石川町の在京会である「東京いわき石川会」やふるさとまちづくり応援寄付金の返礼品等で活用することにより PR 活動を推進します。

(2) 非主食米

ア 飼料用米

地域の畜産農家を対象に、飼料のブランド化（発酵 TMR）、自給飼料の拡大を目指し、国からの水田活用の直接支払交付金及び産地交付金を活用した多収品種の導入推進及び直は栽培や団地化の推進を図り拡大に努めます。耕畜連携により、わら利用の供給を活用し連携をはかります。

また、産地交付金を活用し、団地化等生産性向上の取組により低コスト生産の取組を推進します。

イ 米粉用米

該当なし。

ウ 新市場開拓用米

該当なし。

エ WCS 用稲

主食用米の需給減が見込まれる中、WCS 用稲の需給調整を図り、畜産農家との連携を行い作付面積の拡大を図ります。

また、作付地の団地化を推進することで作業の効率化を進め、品質の向上・作業期間の縮減を目指します。加えて、堆肥を用いた耕畜連携により栽培コストの削減を図り、安定的な飼料供給を推進します。

オ 加工用米

多様なニーズにあった米の品種導入を進め、美山錦や夢の香など酒造好適米の供給数量の拡大を目指します。コスト低減技術、担い手への集積を図るなど生産性向上の取組を推進することで生産拡大を図ります。

カ 備蓄米

備蓄米については平成 30 年度より産地交付金の助成が廃止され、作付面積の維持・拡大が困難な状況にありますが、買い取り価格の安定性や需給調整の必要性をアピールし、作付面積の維持・拡大を目指します。

(3) 麦・大豆・飼料作物

ア 麦・大豆

麦については該当なし。

大豆については、コスト低減技術や担い手への集積を図るなど生産性向上の取組および生産コストの削減に努め作付拡大を目指し、付加価値の高い納豆や豆腐、みそ、醤油等への商品加工に結び付けます。

加工・製造業者と生産農家等との連携を図り、オリジナルな商品開発を支援し、学校給食や直売所等における地産地消を推進します。

更に、ネット販売等の多様な販売体制の構築を図ります。

イ 飼料作物

中山間地域の活性化においては、畜産業が重要な役割を担っています。このため、転作田の有効活用による飼料生産基盤の拡大を図り、耕畜連携による安定的な飼料供給を推進します。

また、栽培管理技術の高位平準化、優良草種の導入による数量の確保及び品質の向

上を図り、飼料作物の効率的生産に努めます。

畜産農家の自家利用を図るとともに、耕種農家の生産する飼料作物については、飼料生産組織等で保有する機械等を活用し、低コスト化による畜産農家への安価な供給を促進します。

なお、対象作物は「イタリアンライグラス、オーチャードグラス、飼料用かぼちゃ、青刈りとうもろこし（デントコーン）、青刈り麦（ライ麦またはえん麦、またサルージ化したものを含む。）、青刈り稲、青刈りソルガム、チモシー、クローバ」とします。

(4) そば、なたね

転作田の活用と遊休農地の解消を図るため、そばの生産を推進します。

「手打ちそば」として、直売所や自治センター等での地域の交流やグリーン・ツーリズムによる田舎体験等の中で活用を図るとともに、山菜や野菜等との組み合わせにより付加価値を高める取組みを推進します。

なたねについては、該当なし。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

ア 野菜

野菜の周年供給体制づくりに向けた、生産の組織化、地域性を活かした品目の確立を目指すとともに、トレーサビリティの充実による食の安全・安心を意識した野菜作りを推進します。

トマト、きゅうり、いんげんを主品目と位置づけ積極的な拡大を図り、施設栽培や被覆栽培の普及・定着化による品質の向上、作期幅の拡大、作柄の安定を推進し出荷拡大を図ります。

また、中山間地域の地理的条件を活かし、作期幅の拡大によるブロッコリー、春菊の産地形成を図るとともに、ニラについては被覆栽培と露地栽培を組み合わせた周年出荷体制を確立します。

本町の野菜を積極的にPRし、市場販売や直売所、更に学校給食等における食材活用を図り、地産地消を絡めた販売体制の構築を図ります。

イ 果樹

該当なし。

ウ 花き

該当なし。

エ その他雑穀

該当なし。

オ その他作物

その他地域振興作物として、「葉タバコ」とします。

(6) 畑地化の推進

水田の畑地化面積に対応して取組を推進し、高収益を目的として取り組めるように進めます。

作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の目標作付面積 (ha)
主食用米	625	623	623
飼料用米	40.29	41.00	41.00
米粉用米	0.00	0.00	0.00
新市場開拓用米	0.00	0.00	0.00
WCS用稲	40.07	41.00	41.00
加工用米	0.51	0.60	0.60
備蓄米	17.54	18.00	18.00
麦	0.00	0.00	0.00
大豆	1.13	1.15	1.15
飼料作物	50.90	50.90	50.90
そば	0.60	0.60	0.60
なたね	0.00	0.00	0.00
その他地域振興作物	1.13	1.19	1.19
きゅうり	0.00	0.00	0.00
とまと	0.55	0.55	0.55
ニラ	0.25	0.25	0.25
いんげん	0.00	0.00	0.00
ブロッコリー	0.05	0.07	0.07
かぼちゃ	0.28	0.32	0.32
計	777.17	777.44	777.44

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標		
			目標	前年度（実績）	目標値
1	加工用米 （基幹作物）	加工用米の 低コスト生 産支援	加工用米作付面 積 加工用米の生産 費	(2019年度) 0ha 11,000円/60kg	(2020年度) 0.6ha 10,500円/60kg
2	飼料用米 （一般品種・多収品 種） （基幹作物）	飼料用米推 進支援	飼料用米の生産 面積 飼料用米（一般品 種、多収品種）の 生産費（平均値）	(2019年度) 32.06ha 15,390円/60kg	(2020年度) 37.5ha 14,584円/60kg
3	WCS用稲 （基幹作物）	WCS用稲の 団地化によ るコスト削 減支援	作付面積 WCS用稲生産量	(2019年度) 27.36ha 1,800kg/10a	(2020年度) 37ha 1,920kg/10a
4	野菜（基幹作物）	地域振興作 物助成	地域振興作物の 作付面積	(2019年度) 野菜 1.13ha	(2020年度) 野菜 1.19ha
5	大豆 （基幹作物）	大豆の低コ スト生産支 援	作付面積 生産費	(2019年度) 0.28ha 11,500円/60kg	(2020年度) 0.50ha 11,000円/60kg
6	そば （二毛作）	そば作付助 成（二毛作）	二毛作の取組面 積 定着度	(2019年度) 0.00ha 0%	(2020年度) 0.1ha 0.001%
7	飼料用米の生産ほ場 の稲わら （基幹作物）	わら利用 （耕畜連携）	飼料用米の稲わ らの利用面積	(2019年度) 25.21ha	(2020年度) 26ha
8	WCS用稲 （基幹作物） 粗飼料作物等 （基幹作物）	資源循環 （耕畜連携）	資源循環の取組 面積	(2019年度) WCS用稲 26.61ha 粗飼料作物等 0ha 合計 26.61ha	(2020年度) WCS用稲 26.7ha 粗飼料作物等 0.3ha 合計 27ha

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり